

## 第1940回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和4年10月13日(木) 午前10時開会  
午前11時14分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、石川教育長職務代理者、戸所委員、坂東委員、小林委員、首藤委員、石井副教育長、古垣教育総務部長、石川県立学校部長、石井市町村支援部長、小谷野教育総務部副部長、佐藤魅力ある高校づくり課長、平野教職員採用課長  
案浦書記長、岩崎書記、原口書記、森田書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
  - 高田教育長が、石川教育長職務代理者を議事録の署名者に指名した。
- (2) 協議事項
- 魅力ある県立高校づくり第2期実施方策(案)について
- 佐藤魅力ある高校づくり課長(提案理由、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策(案)、県民コメント実施状況について説明)
- 石川教育長職務代理者 第1期実施方策のときも賛成や反対の意見が出されましたが、県として、しっかり説明をして御理解いただいたと思います。例えば、今回の秩父高校と皆野高校の統合についての県民コメントで「学校の統合に際しては、丁寧な説明と慎重な対応が必要かと感じている。」との意見がありますが、第1期実施方策の際に経験したことが今回の第2期実施方策に活かされた

ことはありますか。

佐藤魅力ある高校づくり課長 地元からの意見を十分に伺うということは、正にそのとおりだと思います。第1期実施方策では、地元の市町との意思の疎通が若干足りなかったと反省しています。そのため今回は、令和2年から、5学級以下の高校がある市町の首長部局と教育委員会に伺い、今回の再編整備の考え方を丁寧に説明させていただきました。生徒が少なくなることにより、教員も減少し生徒たちが学びたい科目を選択できなくなってしまうこと、また生徒数が減少すると部活動や学校行事が満足に行えない状況になってしまう可能性もあるため、再編整備により学校の教育活動を活性化させたい、未来の子供たちのためにより良い教育環境を築きたいということを地元の方々に説明しました。意思疎通に齟齬が生じないよう、埼玉県が未来の子供たちのために行っているということを時間を掛けて説明しました。

首藤委員 第2期実施方策の変更点で「など」を加えたということですが、課題研究だけでなく他の教科の活動にも力を入れるという理解でよいか教えてください。

佐藤魅力ある高校づくり課長 委員お話のとおり、例えば情報と機械や電気などの専門知識の統合を図るためには、県民コメントにもあるとおり、課題研究以外の基礎的な内容の教科も重要であると思われましたので、その意見を反映しました。

首藤委員 大宮工業と浦和工業の新校基本方針について、県民コメントに良い表現がありました。新校の基本方針を「機械、電気、建築等に関する学科を置き、社会の基盤を支える分野で活躍できる人材を育成するとともに、ロボット技術や専門情報に関する学科を置き、先端産業分野で活躍できる人材の育成を目指します。」に修正してほしいとの意見です。ロボットや情報の分野が重視されがちですが、社会の基盤を支える分野、社会の基礎となる分野で働く社会人を養成する観点が必要だと思われました。「社会の基盤を支える分野で活躍できる人材の育成」の表現は、良いと感じましたが、この内容を実施方策に反映する考えはありますか。

佐藤魅力ある高校づくり課長 今回の御意見の趣旨は、機械、電気や建築などの分野については、社会の基盤を支える分野で活躍できる人材の育成をし、それとは別にロボットや専門情報などに関する分野では、先端産業の人材育成をすとの理解をしました。事務局としては、全ての学科において先端産業で活躍できる人材を目指す方向性で考えています。そのため、新校の目指す方向性とは、若干異なるのではないかと考えています。しかし、内容は非常にすばらしいと思います。そのため、今後の新校準備委員会や新校基本計画検討委員会で新校の魅力につながるような議論をしていきたいと思います。

戸所委員 新校の基本方針はそれぞれありますが、越生高校と鳩山高校の新校基本方針では、「アニメーション」の分野で外部機関との連携について記載されています。どのような外部機関と連携するのか、またどういうところにアプローチしていくのか、今後、具体的に確定してもらえればと思います。同じように八潮南高校と八潮高校の統合の新校基本方針では、会社の設立やマネジメントなど実践型のビジネス教育に取り組むと記載しています。具体的にどのようにしていくのかということがあると思いますので、他の高校の統合でも、具体的に検討していただきたいと思います。私は、生徒が自分らしく生きる、自分らしい人生を送るために教育が不可欠だと考えています。今回たくさんの県民コメントが来ていて、その中にはすばらしい意見もあります。今後、準備を進めていく上で反映できる意見もあると思います。私は準備段階がとても大切だと考えていますので様々な御意見に御配慮いただいて、今後進めてもらえればと思います。

佐藤魅力ある高校づくり課長 委員お話のとおり、アニメーションの分野でどのような外部機関と連携するのか、今後明らかにすることによって、円滑に進められると考えています。また、再編整備の目的は、最終的に未来の子供たちのために行っています。今後もそのような考えで行っていききたいと思います。

戸所委員 私も社会人人生を振り返ると、支店の統合をかなりやってきました。上手くいった事例は、準備段階がとても重要でした。準備段階は、大事な期間ですのでよろしくお願いします。

小林委員 学校関係者の説明会も行ったとの説明がありましたが、学校関係者説明会の実施状況やその中でどのような意見があったのか教えてください。併せて、県民コメント以外でもどのような意見があったのか教えてください。そして、様々な意見があったと思いますが、それに対してどのように対応していくのか、教えてください。

佐藤魅力ある高校づくり課長 学校関係者説明会の意見ですが、大宮工業高校では、「生徒数が減少する中で統合は理解できる。」、八潮高校では、「各校の魅力を損なわず引き継いでほしい。」との意見がありました。和光高校では、「和光高校の特色も生かしてもらいたい。」、岩槻北陵高校では、「基本方針が大人目線とならず、子供たちの立場に立って統合を進めてほしい。」との意見がありました。岩槻高校では、「なぜ岩槻高校と岩槻北陵なのか。」、秩父高校では「4年前に1市4町から提出した要望はどう受け止めているのか。」、越生高校では、「両校がしっかりと一つになって新しい学校を作ってほしい。」との意見がありました。頂いた御意見を真摯に受け止めるとともに、実施方策が策定された後、新校準備委員会において、地元や学校関係者の御意見を伺いながら、引き続き丁寧に対応をしていきたいと思っております。地域に愛され、魅力ある学校になるためには、地域の方々や学校関係者の御理解、御協力が不可欠です。頂いた意見を踏まえながら進めていきます。

小林委員 校舎を閉じる学校の生徒募集は令和5年度が最後になります。どうしても新しい学校の方に目が行きがちですが、最後に入学する生徒や在校生に配慮してほしいと思っております。その辺りについてどのように考えているのか、教えてください。

佐藤魅力ある高校づくり課長 校舎を閉じる学校の生徒については、最後まで充実した学校生活を送れるようにサポートしていきます。部活動等も生徒が満足に行うことができないような状況が無いように配慮しながら丁寧に行っていきます。

首藤委員 県民コメントにもありましたが、秩父高校と皆野高校の統合により生徒の行き場がなくなってしまうのではないかとの意見がありました。それと

関連して、高校生がいなくなると地域に元気がなくなってしまう、寂れてしまうとの意見もありました。地域の教育格差につながるとよくないと思いますし、学校だけの問題ではなくなってきました。それについてどのように考えているか教えてください。

佐藤魅力ある高校づくり課長 学校が校舎を閉じてしまうと、地域が衰退してしまうといった影響があるかもしれませんが、そういったことがないように、例えば、現在鳩山高校では、地域と協働する取組を行っています。地域と協働する取組を新校でも継続することができないか、前向きに検討していきたいと思っています。

坂東委員 各市町、首長や現場の方々とは話を重ねてこられたと思います。これからも反対の意見の方々には、丁寧に趣旨を説明していく必要があると思いますが、具体的なスケジュールについて新校の基本方針が決まった後、今後どのように進めていくのか教えてください。

佐藤魅力ある高校づくり課長 実施方策が策定された後、内部の組織である新校基本計画検討委員会と、地元の方々が構成員となっている新校準備委員会を設置します。令和5年度中をめどに新校の基本理念等を定めた新校基本計画の策定を目指したいと思います。その後、令和6年度から令和7年度にかけて、校名や制服、教育課程等の開校準備を進めていきます。その後、令和7年度の6月定例会で学校設置条例の改正案を上程し、令和8年度の開校につなげたいと考えています。

坂東委員 来年度設置される準備委員会で頂いた意見を聞き、地域が子供たちのために何をするか、準備、検討することが地元の方々の理解につながると思いますのでよろしくお願いします。

- 全出席委員賛成
- 協議の結果、次回の教育委員会で審議することとなった。

### (3) 報告事項

令和5年度埼玉県公立学校教員採用選考試験の結果について

平野教職員採用課長（提出理由、令和5年度埼玉県公立学校教員採用選考試験の1次受験者数、最終合格者数及び倍率（全校種）等について説明）

坂東委員 彩の国学校現場体験事業ですが、全ての合格者が参加するわけではないのでしょうか。

平野教職員採用課長 新卒の学生の10分の1ぐらいの方が参加しています。

坂東委員 体験事業は、赴任する学校でやってるわけではないとの理解でいいでしょうか。

平野教職員採用課長 赴任先は、この時点ではまだ決まっていません。各小・中学校で体験事業の参加者を受け入れていいと手を挙げてくれた学校と、学生の住所地等を踏まえ、参加する学校をマッチングしています。

坂東委員 そうすると採用後に配置される学校とは関係のない学校に参加するというものでいいのでしょうか。

平野教職員採用課長 配置される学校とは直接関係はありません。

戸所委員 一概に倍率が低くなったことが悪いわけではありませんが、そうは言っても応募してくれる人が多いということは大事だと思います。マスコミなどの報道もあったり、先生は大変だとマイナスのイメージがあります。しかし、私は、先生自身が生きがいを感じる場面は多くあると感じています。既に実施しているかもしれませんが、教職課程の大学生に対して行う説明会等で、採用3年から5年目ぐらいまでの教員が講師になっていることはあるのでしょうか。

平野教職員採用課長 先生に対するマイナスイメージが浸透している状況の中で、当課でも教員養成学部を要する五つの大学と協定を締結し、連携大学の教職課程のなかで、教員である事務局職員が教員の魅力など熱く語りかけることを実施しています。また、連携協定以外の大学でも県外を含めた教員募集説明会を実施しており、働き方改革や充実した研修制度等の県の施策を説明しています。教員になりたい生徒に対し、マイナスイメージから持った不安を払拭するような説明をしています。また、教員の魅力である子供の成長に直接関わることについて、学生に対して働き掛け、教員を目指す大学生を増やすよう取組を行っています。具体的な実施状況ですが令和三年度は、104回、2,942人に対

し、説明会等を行っています。

戸所委員 104回の説明のうち、現場の先生が話したことはあるのでしょうか。

平野教職員採用課長 現場の教員は時間的な制約があり、難しいところもあります。しかし、事務局の職員でも教員の出身者がいますのでその者が説明することを基本としています。また、現場の教員の授業風景等を録画して、学生に見てもらするなど動画の活用を進めています。

戸所委員 実業界でも入社を希望する者に対して、自分と年があまり変わらない人の話を聞くことが一番影響力があると思います。そのため、現役の採用年数が3年から5年目ぐらいまでの教員の方が、できれば、1日や半日でも1回でも話せる機会があれば、学生の心の響き方が違うのかなと感じますので検討をお願いします。

平野教職員採用課長 学校の事情があり、どうしても派遣が難しい場面がありますが、今年度から県教育委員会では、「彩の国かがやき教師塾」を始めており、学生が学校を見る機会をいろいろな形で設けることができますので、実際に働いている教員の話の聞いたりするなどの取組を検討していきます。

首藤委員 「彩の国学校現場体験事業」や「教職員生活スタートサポート」は、採用予定者にとって非常にありがたい取組だと思いますので是非今後も継続してほしいと思います。しかし、参加者は大学生ですので、強制的に全員の参加をさせるような方向にはいかないでほしいと思います。大学によっては、小・中学校でボランティアをすることを単位取得として認めており、採用前の現場体験はいろいろなところで行われていますが、県の取組は良い取組だと思います。最近では、県の事務局職員や交流人事で県から来た大学の教員が説明する機会が多くなりました。説明会に参加する学生は、リクルートスーツを着て、髪を黒に染め直してきます。誰もそのようなことを強制はしていませんが、それが教員だとのイメージを持っているのかもしれませんが。もしかして大学生は、教育委員会や学校が多様性のない社会だと感じているのかもしれませんが。県がリクルートスーツを着させ、髪を黒くするよう強制しているわけではないと思いますが、例えば、「説明会では学生だから茶髪のままでもいい。」などの情報を

発信してほしいと思います。むしろ大学側が固定観念を持っているかもしれませんが、実際の現場は多様性がありますので教育委員会は多様性があるのだということを大学側と協議をして情報を発信してほしいと思います。

平野教職員採用課長 委員お話のとおり、採用試験の面接では、リクルートスーツを着て臨むことがほとんどですが、学校説明会は、大学によってリクルートスーツを着ているところもあれば、普段と変わらない服装で参加しているところもあり、どちらかというとも大学側の姿勢や指導によって、学生が影響を受けているのかもしれませんが。その背景には、採用する側の県教育委員会がきちんとした態度や身なりを重視していると思われるのだと思います。教員として子供の前に立つため、最低限挨拶や身だしなみをきちんとできないと困りますが、外見だけにこだわりすぎず、人そのものを見ていくことが大事だと思います。学生から見ると、学校や教育委員会が旧態依然の雰囲気や漂わしていると受け取られ、避けられてしまうことがあるかもしれません。委員の御指摘された内容も考慮しながら、説明会を実施していきたいと思います。

石井市町村支援部長 委員お話された内容は大事なことであり、教員を目指すことを躊躇してしまう、他の進路に進んでしまうことは極力避けていきたいと思っています。教員養成課程を持っている大学と連携協議会を設けていますので、その中で委員のお話した内容について、大学側と十分に協議しながら、今後対応していきたいと考えています。

高田教育長 各委員の皆様から様々な御意見を頂きました。大学生の教員の志願者を増やすアプローチとして、もう少し年代の近い現役の教員から、大変なこともあるがやりがいがあるなどの話を教育学部の学生に伝えてほしいとの戸所委員から貴重な御意見を頂きました。小学校の教員は、ほとんどが担任をしており、説明会に講師として派遣することは、課題があるところもありますが、後輩を育てることは大事な視点であり、今後検討させていただきます。また、高校生に教員養成大学に入学してもらえることも大事だと考えています。自分が知っている先輩が教育学部に入学し、大学生生活の体験談を聞くことによって、先輩と同じ道に進みたいと思うことにつながると思います。今後も、高校



と大学、大学と現場の教員のつながりを大事にしながら、一人でも二人でも優秀な若者が、教育の世界に入ってきてくれるように志願者の確保に向けて努めてまいります。

(4) 次回委員会の開催予定について

10月27日(木) 午前10時